

八学大別科助産専攻の学生 園児に「性の健康教室」

大切な体 自分で守ろう

八戸 八戸学院大別科助産専攻（高橋雪子別科長）は22日、八戸市の八戸学院聖アンナ幼稚園（山西幸子園長）で「性の健康教室」を開いた。学生4人が講師となり、体の大切な部分や性犯罪から身を守る方法などを、クイズや寸劇を交えながら園児に伝えた。（向屋敷萌）

クイズや寸劇交え伝授

教室は学生のフィールドワと呼びかけた。一クの機会にすると同時に、幼児期から性に関する基本的な考えを身につけることで、子どもたちが性暴力から自分の身を守ることができる一助となるよう、一昨年から実施している。

また、知らない大人に「体を見せて」と言われたり、誰かに体を触られたりして嫌な思いをした時は、「嫌だ（との身を守る）こと」が「（その場から）逃げる」「（親や先生に）話す」の三つが大事だと伝えた。

この日は年長児14人と保護者が参加。学生たちは、胸、尻など水着で隠れる部分と口を「プライベートパーツ」と説明し、「自分の体は自分だけの大切なもの。お友達の体も大切。勝手に見たり触ったりしないようにしましょう」と話した。

講師を務めた下向陽子さんは「子どもたちが集中して聞いてくれて、いい反応を返してくれたので、達成感があり大きな学びになった。子どもたちが自分を守るすべをわかってくれたらうれしい」と話した。



不審者役の学生（左）を相手に「嫌だ」と大きな声を出す園児